

を中心に他の論文を英訳して刊行されたものである。デュルケーム学派の活動を完全に熟知するためにはこの書はもっと活用されるべきであるが、日本では比較的知られずにいるようである。筆者は本稿をかくためこの書をもっと利用したかったのであるが、この稿に充てられている枚紙数ではどういつくすことはできないのと、筆者の考え方は若干見方を異にするので、刊行100年記念の意味をこめて本稿を草したのである。この著作においてはたとえばデュルケーム、モース、その他の協力者のかいた「独自の論考」にはどのようなものがあるのかなどは明かにされていない。そこでその点から明らかにしていきたい。そうした点の記録については1980年 Y. Nandan によって編集された *Emile Durkheim, Contributions to L'Année sociologique* が便利である。ただ編者 Nandan の見解に問題があるほか、協力者の貢献についての翻訳（フランス語から英語への）に非常に誤が多いので、Besnard などからも敬遠されているようである。ただ年報第一輯1898-1920 12巻に誰がどのような独自の論文を掲載しているかを見ることはこの年報の刊行に直接協力したデュルケーム学派の組織、構成の問題にも関係するので明かにしておきたい。第一に注目すべきことはデュルケームが6つの論文を発表していること、ある<sup>17)</sup>。それは第一巻の「近親婚の禁止とその起源」<sup>18)</sup> 第二巻に「宗教現象の定義」<sup>19)</sup> 第四巻に「刑法進化の二法則」<sup>20)</sup> 第五巻に「トーテミズム」<sup>21)</sup> 第六巻に「分類の未開形態」<sup>22)</sup>、第八巻に「オーストラリア社会の婚姻組織」<sup>23)</sup> である。これに次いで数の多いのはマルセル・モース Marcel Mauss

で、彼は第二巻に「供犠論」を Hubert と共同で発表しているのをはじめ第九巻にデュルケームと共同著作の「分類の未開形態」第七巻に Hubert との共著「呪術の一般的理論」および第八巻に Beuchat との共同著作で「エスキモー社会の研究」の4つである。デュルケーム、モースの論考はどれも広義の宗教社会学的分野に属するものである。同じ宗教社会学の分野に属するものとしてはこのほかに第十巻に刊行された Huvelin の「呪術と個人法」*Magie et droit individuel* と R. Hertz の「死の集合表象についての研究」<sup>24)</sup> がある。年報第一輯にのせられた独自の論文は全体で18であるから、その半数以上分は Hubert を含めてデュルケーム、モースの著作で占められており、その大部分は宗教社会学の領域に関するものなのである。Steiner は年報に掲載された報告がそうなのはデュルケームが自ら宗教研究への本格的転向は1885年によってうけた啓示によるとのべたことに関係していると見ている<sup>25)</sup>。社会学年報の刊行に努力を集中したことが、デュルケームの宗教現象研究に拍車をかけたというのである。また、デュルケーム自身がかいた年報中の *Mémoires* は大部分は最後の著作 *Les formes élémentaires de la vie religieuse* (1912) へと発展を予想させるものを含んでいるのである。その意味で Lacroix のいう意味とは別の意味においてデュルケームは宗教研究に格別に多くの努力を注いだことは明白である<sup>26)</sup>。

しかし年報は宗教的現象についての研究だけのものではない。この時期に独自の論考について見ると、ジンメル、ブーグレ、リシャール G. Rich-

17) デュルケームはなおこのほか、第一巻と第二巻および第十一巻に序言 *Préface* をかいている。

18) 'La Prohibition de l'inceste et ses origines'、これは小関編訳のデュルケーム家族論集（川島書店1970）に収められている。

19) *De la définition des phénomènes religieux*。これは小関編訳「デュルケーム宗教社会学論集第五章に収められている。（行路社、1998増訂2版59-94頁）

20) 「刑法進化の二法則」*Deux lois de l'évolution pénale*。これは人類の知的遺産57の作田啓一のデュルケームのⅢ部の16に収められている（織田年和訳）。

21) 「トーテミズム」*Le totémisme*。小関訳「分類の未開形態」の中に収められている。

22) "De quelques formes primitive de la classification" 同上の小関訳に収められている。（法政大出版、1995年第三版）

23) 「Sur l'organisation matrimoniale des sociétés australiennes」この訳も注18）に言及されている川島書店刊行のデュルケーム家族論集に収められている。

24) "Contribution à une étude sur la représentation collective de la mort" vol. 10 p. 48-117.

25) Steiner, *E. Durkheim* 1998

26) Lacroix,